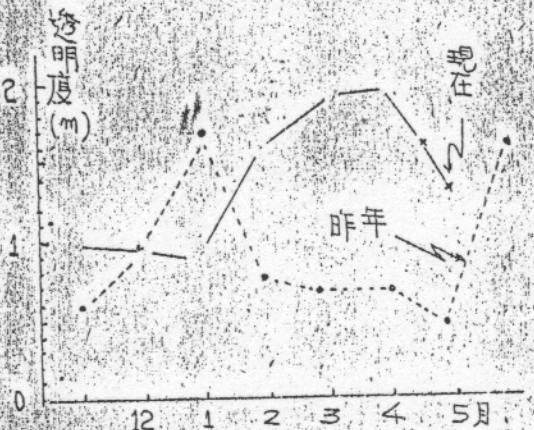
内水試 かわらばん3

1974.4.25 No.3

現在の水質

4月16日現在、

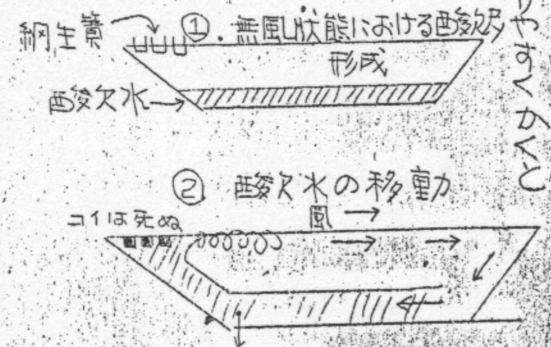
水温も上昇し、そろそろアオコのカゲがみられるようになってきました。しかし、プランクトンの内容は、シネドラと鞭毛虫が中心で、透明度を見ても三又沖で1.6m、4月24日の調査でも1.3mで昨年の同じ時期の0.5～0.8mに比較すると植物プランクトンの量は少ないようです。酸素量も上下差がなく最低でも8.5ppmで問題ないようです。



4月16日		透明度	酸素	塩素量	水温	クロロフィル
木原	上	1.4m	10.3ppm	324ppm	14.6	29mg/m³
	下		10.6	314		
三又	上	1.6	9.7	328	14.3	44
	下		10.2	320		
麻生	上	1.3	10.1	370	13.7	44
	下		8.5	337		
高崎	上	0.6	10.9	397	17.1	180
	下		10.9	397		
白浜	上	1.8	10.8	600	15.7	45
	下		10.5	627		
江川	上	1.5	12.0	518	15.2	73
	下		11.3	523		
三和	上	1.3	11.0	305	15.6	73
	下		10.8	374		

酸欠対策2

前回の図でおわかりと思いますが、酸欠水は、風のないときには、成層ができ、沖合にできます。わかりやすくかくと



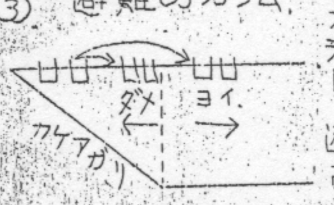
右の図の①のように まず湖底近くに酸欠水ができ、②・風で網生スに流入

したがって酸策のうち確実な方法は避難です。しかし、水深が変化している場所カケアガリよりも沖の方に避難しないと効果はないでしょう。昨年死んで場所は、カケアガリや沖でもそこに近いところです。また沖出しが不充分で逆に早く殺してしまったところもあります。

また沖出しの場合、一面に入れるコイの数を多くし面数を少なくする方が手間がはぶけます。もし、沖合で酸素があれば5×5m、2mの網で4トンぐらい入れても酸欠になりません。

また、同じ問題をかかえている諏訪湖では、一面9×9mの網生スに約10トンのコイを飼い、一人2面ぐらいを沖合へ出したり、もとにもどしたりしているようです。（つづく）

③ 避難の方法



「コイの産卵順調」

5月8日から14日の間に採卵する予定です。今じょう日は未定ですが、おって連絡します。

玉造町[illegible]内水面水産試験場 0.2995-5-0324